

## JARTにおける国際事業

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2022年12月15日から17日にかけて、バンコクで隔年開催のISRRT (International Society of Radiographers and Radiological Technologists) 世界大会が開催されました。大会に先立ち、加盟国による評議員会が開催され、本会の兄玉直樹副会長が理事に選任されました。日本からの理事就任は中村實元会長以来24年ぶりとなります。中村實元会長は1994年から4年間ISRRT会長を務められました。またISRRT会長も米国のDonna Newman氏からタイのNapapong Pongnapang氏に交代し、本会はアジアオーストラレーシア地域の一員としてISRRTの活動に積極的に協力していきたいと考えています。ISRRT 2022の情報はNetwork Now 2月号に関連記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。



JARTが関係する最近の国際事業としては、第23回アジアオーストラレーシア地域診療放射線技師学術大会 (AACRT) ならびに第28回東アジア学術交流大会 (EACRT) が第37回日本診療放射線技師学術大会 (東京ビッグサイト；篠原大会長) と同時に開催されましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で完全オンライン開催となったため、会員の皆さまにお伝えする情報も少なく残念に思いました。2023年9月29日から10月1日にかけて熊本市で開催される第39回日本診療放射線技師学術大会では、第30回EACRTも同時開催されます。再び、日本国内において国際事業が対面で開催される可能性が高まっています。ぜひご期待ください。

また日本・韓国・台湾・タイの4カ国で構成される、国際専門放射線技師認定機構 (IABSRT) は、本年 (2023年) 12月に日本での会議が予定されており、コロナ後の国際認定試験の再開が検討されると思います。

その他の本会が定期的に参画する事業として、アジア放射線治療シンポジウム (ARTS) やアジアサポートファンド (ASP) があります。またコロナで途絶えていたEuropean Congress of Radiology (ECR) におけるEuropean Federation of Radiographer Societies (EFRS) との共催事業の復活や、Continuous Professional Development (CPD) Asiaへの協力も期待されています。

これまでの3年間は、新型コロナウイルス感染症で対面での国際交流が困難でしたが、その間、ISRRTにはWebinarで本会から2つの講演を企画していただきました。また各国の学術大会時に動画による祝辞の習慣が生まれるなど、離れていてもさまざまなツールでつながることができるオンラインの利点を再認識することができました。

本会は、各国で異なる (診療) 放射線技師制度の下での画像診断や放射線治療の発展に貢献していますが、放射線の安全利用や画質改善、放射線量の最適化については各国共通に重要事項となっています。各国とも、より良い放射線診療に貢献するための活動をしてきたことで相互の理解や信頼が生まれてきたのだと思います。今後も国際活動を通して日本における診療放射線技師職の向上に努めたいと思います。